
Fade In Night

井竹同太良月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Fade In Night

【Nコード】

N0060E

【作者名】

井竹同太良月

【あらすじ】

幼い頃から霊が見えていたフィンは、ある夜に不思議な体験をする。そして、少しずつ彼の日常が崩れ、非日常的な毎日が動き出した。

プロローグ

冷たい雨の降る日だった。俺はなぜか雨に打たれていて、体の芯まで冷たくなっていたのを覚えている。

三月十八日午後七時十七分、アグラナ市カリミア公園にて

ここは、いわゆるベットタウンってやつだった。普段から人通りあまりないこの街は、雨のせいもあってか、いつも以上にひっそりと、静まりかえっているように感じられた。

今にして思えば、あれはこれから起こる騒動の前兆だったのかもしれない。ほら、よく言うだろ、嵐の前の何とやらって。

あのとき帰っていれば・・・と今までも思う。そしたならば、俺は今とは全く違った、いや、今まで通りの平穏な日常を送ることが出来ていたと思う。

まあ、今となっては後の祭りだし、別にあのとき帰らなかったことを後悔しているわけでもないし、別に良いかと思っただけさ。さえないけれど。

人の気配を、全くと言っていいほど感じないここは、都心よりやや外れた街の、更にその外れにある公園だった。

俺は、雨に打たれているのに、傘もささず、動こうともせず、ただ公園の中に、立っていた。今思い返しても、このとき、なぜここに立っていたのかは思い出せない。ただ、あのときは、体の芯まで冷えきっていたのにもかかわらず、寒いとさえ感じなかったことを覚えている。

俺は、幼い頃から霊が見えた。なので、生まれる前に死んだはず

の爺さんにも会ったし、戦争で死んで、家族に会えなかったどこかの親父さんにもあったことがある。

そのせいか、同年代の奴らに比べれば、大人びていたし、それなりに対応力もあるつもりだった。それでも俺はそれを見たとき、今までの価値観をひっくり返されたような衝撃を受けて、立ちすくんでしまった。

俺は何も考えず、公園の中を歩いていった。ただ、何かに呼ばれているかのように、すーっと体が動いていき、そして開けた場所に出たとき、俺の目に、信じられない光景が飛び込んできた。

（か、体が、光ってる・・・）

そこには、きれいな女の人があった。金髪を腰まで届かせ、雨の中でも驚くほどの鮮明さを持っていた。俺は人外のようなその光景を見て、ずっと目を離せずにいた。

ふと、その女性の体が輝きを増した。そう、光を覆っていた物がなくなっただけのように光は更に輝きを増し・・・ふっと消えてしまった。

光が消え去り、再び暗闇が訪れた。あれだけの光を直視してしまっただけなのに、なぜか俺は暗闇が訪れても視力を保つことが出来ていた。

だが、俺の視界にはさっきまでの女性の姿は見あたらなかった。

（そんな馬鹿な！）

確かに、さっきの光のさなか、俺は目をつぶってしまった。だが、それは本当に一瞬で、動く暇なんてなかったはずだった。

俺は彼女を捜そうと回りを見渡した。すると

「誰を捜しているの？」

不意に上から声が振ってきた。

その口調は親がいたずらをした子供をしかるような、そんな口調だった。

俺が驚いて上を見ると、そこにはさっきまで俺が探していた金髪

の女性が街灯の上に座って、俺を見下ろしていた。

その女性はこちらの返答を待たず言葉を続ける。

「子供はもう帰って寝なさい。」

そう言っただけで彼女は指をぱちんと鳴らす。その瞬間、俺は急激な眠気に襲われ意識を手放した。

プロローグ（後書き）

初めての投稿です。ちょっと文章力に不安が残っていますが、とりあえず、一週間に一話程度の割合でやっていきたいと思えます。感想、アドバイス等は

itsutsutar@gmail.com

までお願いします。

また、このサイトで小説を書いている方は、HNや作品名を書いていただくと、読ませていただきますので、よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0060e/>

Fade In Night

2010年10月28日14時01分発行